

第7章 通知表の所見

1 通知表における所見のエラー

- エラー1 道徳性そのものを評価した記述
- エラー2 児童生徒の人格そのものを評価した記述
- エラー3 目標に準拠した評価（絶対評価）を思わせる記述
- エラー4 他の児童生徒と比較した評価を思わせる記述
- エラー5 道徳科の学習状況ではなく、学校生活の様子を記述
- エラー6 道徳科の特質に応じた学習状況ではなく、どの教科にも当てはまるような記述
- エラー7 根拠のない推測による記述
- エラー8 専門的な教育用語を使った記述



これらは、なぜエラーなのでしょう？
道徳の研修として、校内で議論してみるのもよい
と思います。

2 エラーの理由と改善の方向

●エラー１ 道徳性そのものを評価した記述

エラー文例

思いやりについての学習では、手を差し延べる思いやりと見守る思いやりを比べながら考えていました。この学習を通して、人を思いやるやさしい心情が育ったと思います。



改善した文例

思いやりについての学習では、手を差し延べる思いやりと見守る思いやりの２つを比べながら話し合い、相手の立場を考え見守る思いやりがあることに気づきました。

エラー文例は、「**道徳的な心情が育った**」という記述が気になります

指導者の懸命で計画的な指導により、道徳的心情は育っているかもしれませんが、**道徳的心情は、目に見えない内面的資質のことです。授業において、内面的資質である道徳性が育ったかどうかは、容易に判断できるものではありません。**

道徳科の学習評価は、授業の中で見られる子どもの「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子（道徳性につながるような学習状況の成長）」を把握していくのです。

「心情」だけでなく、「判断力が高まってきました」や「態度が育ってきました」といった記述も注意が必要です。

●エラー２ 児童生徒の人格そのものを評価した記述

エラー文例

教材の中の場面に対して、自分がその場面にいたら、どのように行動したかを考え、いつも発言していました。その成果として、性格も前向きで明るくなりました。



改善した文例

道徳科の授業では、自分がその場面にいたら、どのような行動をとるのか、どのような気持ちになるのかを考え、発言するようになってきました。

エラー文例は、「**性格も前向きで明るくなりました**」という記述が気になります。

この記述は、道徳科の学習状況のことではありません。子どもの人格に関わるような内容を安易に活字にするものではありません。

エラー文例の前半には、「自分がその場面にいたら、どのように行動したかを考え」とあります。この部分は、道徳科の目標に示されている「自己を見つめる」という学習活動を表していると考えられます。

道徳科の授業を積み重ねていくうちに、徐々に自分との関わりで考えることができるようになってきたことが伝わります。

つまり、道徳科の目標に示された学習を積み上げた結果として、学習状況に成長が見られてきたことを伝えるような所見にする必要があると思います。

●エラー３ 目標に準拠した評価（絶対評価）を思わせる記述

エラー文例

1学期の初めは、授業のねらいとは違う考えをもつことがありましたが、後半はこちらが期待しているよりよい考え方をもち、発言できるようになってきました。



改善した文例

「友情」や「親切」等の価値観について、自分の経験を想起しながら考えたり、自分がその立場ならどんな行動をとるのか発言したりして、自分の考え方を明確にできるようになってきました。

エラー文例では、「教師の期待する考えと違うことはいけない」という印象を与えてしまいます。

例えば、A,B,C という3つの考えが出たとします。Cは教師が期待する考えです。このCの考えは、全員の児童生徒に触れさせる必要があります。児童生徒によっては、聞いたこともなく経験したこともない考えかもしれません。だからこそ、出合わせる大切です。

そして、授業の終わりに、「Cの考えも分かるけど、Aの考えが大切と思う」等の発言が出てきても、その子の学びは成立しています。Cの考えを理解し、その上で自己決定をしているからです。

このように、教師の期待する考えに納得できなかったとしても、「知る」「触れる」「出合う」という学習の経験により、将来、実生活の中で実現する可能性が出てくるのです。

●エラー４ 他の児童生徒と比較した評価を思わせる記述

エラー文例

他の子に比べて発言は少ないですが、他の子よりじっくりと考えています。ノートを見ると、友達の考えの良いところを取り入れ、考えを深めていることが分かります。



改善した文例

道徳科の学習では、登場人物の立場になり、自分の考えを発言するようになってきました。また、ノートには、今の自分の課題や自分にとって大切な事をまとめていました。

道徳科の評価は、子どものマイナス面を強調したり、他と比べたりするような評価はしません。一人一人の子どもの良さを認め励ます個人内評価です。

エラー文例では、まず「発言が少ない」という記述が気になります。読む側からすれば、他の子どもと比べて少ないと否定的に評価されていると捉えるでしょう。

「発言が少ない」というのは、言い換えれば、「少しはある」ということになります。「発言は少ない」と言い切ってしまうと、マイナスの印象だけを与えてしまいます。

他の子と比べるのではなく、例えば、その子の4月の学び方と7月の学び方を比べて、その子なりの努力や成長の様子を記述していく等が考えられます。

●エラー５ 道徳科の学習状況ではなく、学校生活の様子を記述

エラー文例

委員会活動では、他の子が嫌がるような仕事にも率先して取り組みました。また、全校の人たちのことを考えた責任感あふれる発言はすばらしいと思います。



改善した文例

勤労についての学習では、委員会活動での自分の活動を振り返ることで、役割と責任、達成感等の勤労の意義について、考えを広げることができました。

エラー文例は、そもそも道徳科の学習のことではありません。**道徳科の評価とは、道徳科の授業における子どもの学習状況等を継続的に把握すること**を指しています。

したがって、委員会活動や児童会（生徒会）活動、部活動、挨拶運動、ボランティア活動等において、子どもが道徳的行為を発揮したとしても、道徳科として評価することはしません。**道徳科の授業における子どもの学習状況等について記述**していくのです。

例えば、授業の中で、委員会活動での出来事を振り返りながら考えを深めたとすれば、それは道徳科の目標に示された「自己を見つめる学習」や「自己の生き方（人間としての生き方）」について考えを深める学習」と捉えることができます。

そのような学び方をしている子ども姿を記述し、認め励ますような所見にすることが考えられます。

●エラー６ 道徳科の特質に応じた学習状況ではなく、どの教科にも当てはまるような記述

エラー文例

挙手の回数や発言も多く、学習への積極さを感じます。また、発言だけでなく、ノートの記述も丁寧で、とても見やすく整理されています。



改善した文例

道徳科の学習では、授業の終わりに今の自分を振り返ったり、これからの自分を思い描いたりしながら、自分の考えをもつようになってきました。

エラー文例は、道徳科の授業のことなのか疑問が残ります。このような記述をしてしまうと、指導者自身が道徳科の学習の特質を理解できていないと思われてしまいます。

学習指導要領解説には、次の２つの着眼点で、子どもの学習状況を把握していくことが示されています。

- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。
- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

このような着眼点を指導者が持って、授業にのぞまなければ、道徳科の評価は成立しないのです。

●エラー７ 根拠のない推測による記述

エラー文例

「正直」についての学習では、登場人物に自分を重ねながら、正直に生きることの大切さを述べていました。正直にできなかった時の経験が、大切さをより実感させたのでしょう。



改善した文例

「正直」についての学習では、正直にできなかった時の気持ちと正直になれた時の明るい気持ちの両面を友達に伝えることにより、正直に振る舞う大切さに気付くことができました。

エラー文例にある「正直にできなかった経験」とは、一体何のことなのかわかりません。これを読んだ保護者は、うちの子は正直にできなかったことがあったのだろうかと不安をもつかもしれません。

また、正直に振る舞う大切を述べたことが、正直にできなかった経験と結びついているのか不明瞭です。

このような**安易な推測や予想による記述は保護者や子どもの信頼を損なう**ことになりかねません。通知表に記述したことは、その説明責任があるという自覚が必要です。

この文例では、正直にできなかった時のつらい気持ちと正直にできた時の明るい気持ちを比較して考えることにより、大切さをより実感できたという内容で記述していくことが考えられます。

●エラー８ 専門的な教育用語を使った記述

エラー文例

どの授業においても、教材の登場人物に自我関与し、多面的・多角的に考えることにより、道徳的価値の自覚を一層深めることができました。



改善した文例

どの授業においても、教材の登場人物と自分を重ねながら学習に取り組み、自分の課題や自分にとって何が大切かを考えていました。

NG文例は、「**自我関与**」「**道徳的価値の自覚**」という**専門用語**が使用されています。

「自我関与」とは、どういう意味でしょうか。

「道徳的価値の自覚」とは、どのようなことでしょうか。

保護者に対して、自信をもって説明できる人は少ないのではないのでしょうか。

このような専門用語に限らず、自分が説明できないような言葉や文章は、通知表に記述すべきではありません。

通知表は、子どもや保護者など、誰が読んでも理解できるような、**平易な言葉**を使用するよう**心掛ける**必要があります。

3 所見に盛り込みたい構成要素

まず、保護者や子どもに伝わらない所見では、先生方の努力が報われません。

保護者は教育の専門家ではないという意識をもつことが必要です。また、子どもにとっては、道徳科の授業での頑張りを誉めてもらったと納得できるものがよいと思います。

そこで、次の3つの要素を意識して所見を書いてみてはどうかという一つの提案です。

もちろん、これ以外の要素も十分考えられます。

①	どんな学習活動の場面なのか	・・・	学習場面
②	どのような学び方をしたのか	・・・	学習状況
③	どんな良さがあったのか	・・・	学びの高まり



本当の友だちとはどんな存在なのか考える学習では・・・①学習場面
運動会で友達と助け合った経験を思い出しながら話し合い・・・②学習状況
一緒にいて楽しいという考えから、認め励まし合う関係であると・・・③学びの高まり
考えを広げることができました。

①～③の構成要素は、必ずしも①→②→③という順番通りになるとは限りません。①→③→②という場合もありますし、1つの文節に2つの要素が表現される場合等も考えられます。

①～③の構成要素は、あくまでも1つの提案です。これ以外の要素も考えられますし、所見文を書く時の順序や枠組みでもありません。

子どもの学びを継続的に把握し、伸ばすためにも学校または学年部でどのような方針で記述するのか、また、どのような要素で記述していくのか等議論することが大切です。

4 評価よりも、まず授業

道徳科の目標に示された学習を行わなければ、道徳性の育成につながるような子どもの学習状況は生まれません。

【道徳科の目標に示されている学習】

- ◇ 道徳的価値について理解する学習
- ◇ 自己を見つめる学習
- ◇ 物事を多面的・多角的に考える学習
- ◇ 自己の生き方について考えを深める学習
(人間としての生き方)

子どもの未来に向かう心の活力を育てるためにも、また通知表の記述は、自分自身の授業の評価であるという意識を持って日々の授業作りに取り組みたいものです。

絶対に忘れてはならないのは、通知表の記述が目的ではないということです。

評価よりも、まずは授業です。